

第4回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザ - 会議

(平成30年7月25日開催)

主な意見と指摘事項について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項
干潟表土仮置き保管状況については、保管表土は砂分が多い性状のため、乾燥などによる固化は生じていないため、現状の保管状態でよい。
干潟表土を被覆しているシートが経過により劣化しているため、新しいシートに取り換えること。
浚渫範囲に設置している連続観測用口ガー（D0・塩分）については、春季～夏季にかけてフジツボなどの付着生物により、計測に影響をおよぼす。そのため、頻繁に口ガーを引き上げ、センサー部分の清掃をおこなうこと。

2. 定期環境モニタリング調査（平成30年度春）の結果について

意見・指摘事項
鳥類調査結果について、トウネンやハマシギが春季調査で確認されていないが、全国的に減少している可能性もあるため、首都高大師橋の鳥類調査結果も参考に考察すること。
橋梁完成後の鳥類飛翔高度への影響として、高度区分10～20m（橋梁高さ）のみ注視しているが、他の飛翔高度の出現状況についても経年変化がわかるようにまとめていくこと。
底生生物調査結果について、河口域に特異的な3種（ヤマトカワゴカイ、ヤマトシジミ、ヤマトスピオ）の個体数変動、ヤマトシジミの殻長組成の動態を把握すること。
底質調査結果について、底質と底生生物の関係性を今後検討すること。
底質調査結果について、台風によるシルト・粘土分の堆積は干潟表面のみであり、いずれ粒径分布は元に戻ると考えられる。